

氏名・(本籍)	堀靖人 (富山県)
学位の種類	博士(農学)
学位記番号	農博乙第1389号
学位授与の日付	平成10年3月12日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当
学位論文題目	林業・森林管理の担い手の存在形態とその支援策に関する研究
論文調査委員	(主査) 教授 深尾清造 (副査) 教授 堺正紘 助教授 岡森昭則

論文内容の要旨

わが国の急速な工業化は、農山村地域の過疎化と農林業の採算性悪化をもたらした。そのため林業・森林管理の担い手は減少し、木材生産のみならず、森林の公益的機能の維持が危殆にひんしている。本研究では、わが国の林業・森林管理の担い手として重要な位置をしめる林家と森林組合の存在形態とそれらの有機的関係についての分析と、林家や林業労働者への支援策の検討を主要な課題としている。

まず、林家と森林組合の担い手としての意義と林政上での位置づけを統計資料の分析と事例研究によって明らかにした。即ち戦後林政の展開の中で家族経営的林業から森林組合協業、地域林業の組織化へと林業・森林管理の担い手の重点は移ってきたが、担い手としてどちらが重要かよりも、両者の有機的関係が肝要である。林家は森林管理上の意志決定、育林作業の実行者として不可欠な存在であり、「家」の継続性という行動原理に支えられ、そのもとで継続的な森林管理を行ってきた。他方、森林組合は、森林作業の代行、林産物の共同販売、雇用創出により、個別林家の限界を補完する役割を担っている。しかし、林家の「家」としての継続性が脅かされている中で森林組合事業は山村に残った林家の組織化と、不在村所有者の施業の担当という二つの役割を要請されている。

次に担い手の支援策を検討するために、林業・森林に対するドイツのEC型デカップリング的施策とわが国の中山間地域対策を比較検討した。即ちEC型デカップリング的施策では生産のみならず、環境、地域問題との統合が目指され、農林家の存続支持を重視し、直接所得支持が実施されており、わが国でも今後導入が必要であることを明らかにしている。